

# 陸上運動部部便り

2010年9月号

一橋戦・全日本インカレ

## 目次

1	一橋戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	1
1.3	女子主将の言葉	1
1.4	試合経過	1
1.5	試合結果	7
2	日本インカレ	9
2.1	監督の言葉	9
2.2	主将の言葉	9
2.3	選手の言葉	9
2.4	試合経過	9
2.5	試合結果	10
3	2010年度部内5傑	10
4	自己記録更新者一覧 2010.8.2~9.4	12
5	主務より	12
5.1	応援OB・OG紹介	12
5.2	行事予定	13
5.3	連絡先(慶弔等)	13

## 1 一橋戦

### 1.1 監督の言葉

監督 藤田靖浩

今年度の一橋戦は、9月にも関わらず、気温37度という炎天下の中の試合となりました。結果は男子・女子とも総合優勝ですが、主力選手のトラックでの不調もあり、男子に関しては3点差という僅差の勝利、京大戦に向け課題の残る一戦となりました。

一方、1,2年生を中心に3番手、4番手の選手の記録は比較的良く、部内での切磋琢磨を通じ、この一ヶ月間で更なる成長が期待されます。

### 1.2 主将の言葉

主将 酒谷彰一

過日東大駒場グラウンドにて行われた一橋戦におきましては、近年では最強の布陣を敷き、更に当日ベストに近いパフォーマンスを見せてきた一橋大学に対し非常に苦しめられはしましたものの、我らが東京大学が3点差で辛くも勝利を収めました。

個人の記録が良くも悪くも安定していた感が否めませんが、この試合に合わせた選手が少ない中で一定の記録が出てきたことは評価に値すると思います。また西田(4年)が100mにおいて貫録の10"82、千葉(4年)がやり投げで復活の51m51、両りレーもエース抜きの新布陣で42"58と3'21"25を出したあたり、今後の試合、また次年度以降にも期待が持てる結果になったと思います。

さて、秋シーズンの最大の目標は京大戦の勝利です。七大の結果を見る限りはこちらが挑戦者という構図になるのですが、チーム全体で見るとその差はほとんどありません。私自身勝利を強く欲しておりますので、残りのわずかな期間の中で、選手として、また主将として自分が東大陸上部のためにできることを全てやり切りたいと思っております。

皆様に吉報が届けますよう、部員一同精進を重ねて参りますので、今後とも変わらぬご支援ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

### 1.3 女子主将の言葉

女子主将 高山花子

今季初めて対校戦での勝利を収めることができました。全種目で優勝を果たしただけでなく、1500mの浜松(2年)、杉浦(2年)、砲丸投の武田(1年)が自己新を出す等、多くの選手が炎天下の中で好記録を出せたことで、京大戦に向けてもよい流れが出来たのではないかと思います。京大戦まで残りわずかですが、五年ぶりの勝利を目指し、全員で精一杯努力し

てゆきます。今後ともご指導、ご支援の程、よろしくお願い致します。

## 1.4 試合経過

### トラック

#### 10:30 男子 100m 決勝

3レーンに春日(3年)、5レーンに西田(4年)、7レーンに菊池(2年)の出場。春日はこの大会の1週間前に10"91の自己ベストを、菊池は七大戦で大学ベストをマークしている。安定感のある西田と共に、澄み渡った青空と緩やかな追い風の下好記録が期待される。

号砲と共に一斉に飛び出し、30m付近まで横一線の状態。ここで西田が持ち前の加速力で頭一つ抜け出し、それを他の5選手が追う展開となる。西田はそのまま悠々と右手を突き上げ1位でゴールし、春日は競っていた4レーンの永田(一橋大)に終盤離され3位、菊池は2レーンのラッシュ(一橋大)にわずかに及ばず5位でゴール。各々のタイムは西田が10"82、春日が11"09、菊池が11"33であり、風は+1.9mであった。

最初の対校種目であった100mは6対4で勝ち越し、チームに勢いを与える結果となった。各選手自己記録の更新はなかったが、それに近いパフォーマンスを発揮し、短距離パートの今後の活躍を予感させるレースとなった。京大戦では更なる強敵が待ち構えているが、それを迎え撃つ力は十分にあると言えるだろう。

#### 10:55 女子 100m 決勝

4レーンに久保木(2年)、6レーンに鈴木(2年)の出場。女子の最初の対校種目なので、大勝してチームに勢いを付けたいところである。昨年の覇者である久保木はもちろんのこと、鈴木にも期待がかかる。

スタートの号砲が鳴る。スタート後すぐに久保木と鈴木が2人が前に抜け出る。その後久保木は1人抜け出し、レースの主導権を握る展開になった。中盤は危なげない走りを見せるが、終盤は力んだためか少々失速。しかしそのまま13"40の1位でフィ

ニッシュ。一方の鈴木だが、加速から中間疾走にかけてはまずまずの走りであった。後半は粘り強く走り、先行する久保木に食らいついて行った。差を詰めるが、鈴木は13"51の2位でゴールした。このときの風は0.0mだった。

結果東大は津田塾大に対し大きな点差をつけ、女子チームは最高の滑り出しをすることができた。約1ヶ月後に迫っている京大戦でも、本日と同じワンツーフイニッシュを目指してほしい。今後の女子チームを引っ張る2年生コンビに期待がかかる。

#### 11:10 男子 1500m 決勝

渡邊(4年)、池田(3年)、鈴木(3年)の出場。例年よりも暑い日が続いており、池田も鈴木も調子を落としている。昨年覇者である渡邊も院試明けであり、総じて東大勢のコンディションはあまり良いとは言えない。

号砲が鳴り、渡邊が1番手で100mを通過。本調子でない渡邊はスローペースを作ろうとするが、一橋の選手はそれをかわし、追うように鈴木も出てそのまま先頭に立つ。しばらくは鈴木が先頭を走るが、400m手前で一橋勢3人にかわされ、東大勢はそれを追う展開となった。400mは66"で通過し集団状態を維持。そのまま800mを2'16"で通過。800mを通過した所で鈴木、900mで池田が集団に遅れをとり始める。そして、ラスト1周の鐘が鳴って集団のペースが上がり、このレースの勝敗は渡邊1人に託された。しかし渡邊も苦しく、ラスト150mで突き放されてしまい、4'15"23の4位でゴールイン。池田は4'21"27の5位、鈴木は4'29"14の6位でレースを終え、無念の完敗で終わった。この種目で一橋大に8点差をつけられ、東大は痛手を負うこととなった。

参考記録から一橋大に分があったとは言え、中距離種目が大きく足を引っ張っていることは否めない。中距離種目において東大勢の選手層の薄さを露呈する結果となった。今後の奮起が促される。

### 11:30 女子 1500m 決勝

杉浦(2年)、浜松(2年)の出場。杉浦の粘り強い走りと浜松のスピードで上位独占に期待がかかる。

スタートすると、津田塾の選手が先頭にたち、それに付く形で浜松、杉浦の順に続く。その順位のまま1周目を80"で通過。その後杉浦とその後続との選手の間が徐々に開き、レースは先頭3人の争いとなる。1200mまでは先頭集団の順位は変わらずに2周目を85"、3周目を86"のラップで通過。1200m付近に差し掛かると2番手にいた浜松が先頭に出て、それに続いて杉浦も津田塾の選手を追い越す。その後浜松はスパートをかけて後続を一気に突き放し独走。杉浦は残り100m付近で後ろの選手に差を詰められそうになりつつも、順位を落とすことなくゴール。結果は浜松が5'06"61の1位、杉浦が5'10"57の2位となり、当初の狙い通りワンツーフィニッシュきめた。

全体的には危なげないレース展開となった。また、両者とも対校の走りを念頭に置きつつも自己ベストを更新するという結果を出し、今後の大会や記録会に向けて弾みがついたのではないだろうか。特に浜松は多種目出場ながらもベストを更新し、練習の成果が如実に表れたといえる。

### 11:50 男子 110mH 決勝

3レーンに増本(4年)、5レーンに酒谷(4年)、7レーンに江間(4年)の出場。申請記録通りのパフォーマンスを見せられれば1、2、3位を独占できるこの種目。確実に点を取っておきたい。

号砲とともに一斉にスタート。序盤、増本と酒谷を含む3選手が先頭を争う。江間はやや出遅れてしまう。酒谷は中盤へ差しかかると集団から抜け出し単独トップに。そのままスムーズなハードリングで他を寄せ付けず、15"54の1位でフィニッシュ。増本は中盤で2番手となる。3番手の選手も追い上げてくるが、最後まで粘り15"88の2位でゴール。江間は5番手争いだが、なんとか4位まで上がって得点争いを演じたいところ。しかし、終盤にハードルに脚をぶつ

けてしまい、僅差で最下位でゴール。タイムは16"62。このとき風は0.0mであった。

この種目では4点勝ち越しとなったが、記録面ではあまり冴えない結果となった。一方、同日のオープンでは杉森(1年)が16"36の自己ベストを出している。あと1ヶ月ではあるが、互いに切磋琢磨して京大戦に臨んでほしい。

### 12:10 男子 400m 決勝

2レーンに舩島(3年)、4レーンに大澤(2年)、6レーンに上松(2年)の出場。大澤はテーピングを巻いての出場。ハムの辺りが痛むようだ。また、5レーンの一橋大の選手が棄権のため上松はアウトレーンを1人で走るようになった。

スタートは全員がほぼ並ぶ形。100mを通過した辺りから、舩島がバックストレートで伸びてくる。大澤、上松も離されることなくスムーズに通過していった。しかし、200mから300mの曲走路では一橋大の選手2人が追い上げてくる。ホームストレートに入った時点では一橋大がやや優勢となる。ラストの100mで大澤、舩島が前方との距離を縮める。上松も、隣のレーンが不在のため競りにくいだろうが、粘り強い走りを見せる。ゴール手前で大澤が一橋大の選手1人に競り勝つが、1位は他方の一橋大の選手に取られてしまった。結果は、大澤が2位で50"57、上松が4位で50"91、舩島が5位で51"38となった。

気温が35度を超えるかなり暑い中でのレース。各々の状況を考慮すれば、圧倒的な実力差があった訳ではない。最後は一橋大が気持ちで1位を勝ち取ったようにも見えた。

### 12:30 女子 400m 決勝

4レーンに浜松(2年)、6レーンに増田(1年)の出場。猛暑の中、1、2位を独占し得点で津田塾大に差をつけられるか。

号砲が鳴る。勢いよくスタートしたのは5レーンの渡邊(津田塾大)で、それに離されまいと浜松もついていく。一方の増田はバックストレートでその渡邊にかわされや

や劣勢に。浜松は渡邊とほぼ並んだまま第4コーナーを回った。ここで浜松はラストパートをかけて渡邊との差を広げ、見事1位でフィニッシュ。記録は1'04"20であった。増田は花岡(津田塾大)と3位争いを演じていたが、第4コーナーの手前辺りで3位の座を明け渡してしまい、懸命のラストパートも及ばず、4位でフィニッシュ。記録は1'08"71であった。

結果、この種目で津田塾大、東大両校とも9点を取り、津田塾大に差をつけることはできなかった。京大戦では本来の対校選手であった鈴木(1年)が復帰し、今回以上の結果を残すことが望まれる。

#### 13:50 男子4×100mR 決勝

4レーンに春日(3年)-菊池(2年)-舩島(3年)-真木(2年)の走順で出場。4年生抜きでの関カレ標準記録突破も狙うが、本来走る予定だった山下(2年)の脚の調子が思わしくなく、急遽真木を起用。真木も万全ではないようだが、果たしてどうなるか。

号砲とともに素晴らしいスタートダッシュを決める春日。アウトレーンにも関わらず一橋大を引き離す。その勢いのまま2走の菊池へバトンパス。100mではあまり調子の上がらなかった菊池。悪くない走りだが、一橋大が猛烈な追い上げを見せ差はわずかに。舩島へバトンが渡る。一橋大を振り払おうと試みるが、じわじわ追いつかれる。一瞬先行されたように見えたがそこは譲らず、4走へのバトンパスは両チームほぼ同時だ。真木に全てが託される。本調子でない中懸命に走るが、中盤にさしかかりリードを許してからは動きが硬くなった。徐々に差を広げられつつフィニッシュ。42"58の2位であった。

関カレの標準切りは果たすが、一橋大に敗北。京大戦ではベストメンバーで臨み勝利をもぎ取ってほしい。あまり練習を積めなかったバトンパスにも、さらに磨きをかけて行ってほしいところである。

#### 15:00 男子5000m 決勝

東(3年)、宮野(3年)、青木(3年)の出

場。こここのところ連日猛暑が続いており、今日も最高気温は35度を記録し、長距離選手にとっては非常に苦しいコンディションの中でのレースとなった。それに加え、各選手とも夏合宿の疲れが抜け切れておらず、いつものような15分前後の走りは期待できなかったが、勝負に徹する走りでも多く獲得することが期待された。

スタート直後、宮野と一橋大の大垣が飛び出し、2つの集団に分かれた。1000mの通過は宮野が3'03"で、ここから第2集団が先頭の2人に追いつき一つの集団になった。2000mの通過は宮野が6'11"、2秒差で第二集団が続いた。2400mあたりで一橋大の渡辺が遅れ、3000mの通過は宮野が9'16"。第2集団との差は5秒だった。ここから青木、東、森田が2位争いを演じるが、東、青木は徐々に森田に離されてしまった。4000mは宮野が12'20"、2位の森田との差は10秒だった。このあたりから5位だった大垣が東、青木に追いつき、3人が3位争いを始めた。青木、東もよく粘ったが、力をためていた大垣がラスト1周で強烈なスパートをかけ2人は離されてしまった。しかし宮野は暑い中でもいつも通りの力強い走りを最後まで見せ15'17"09の1位でゴール。東が15'49"13で4位、青木が15'51"41で5位だった。

直前に行われた5000mOPでは15分台の選手が17分かかるなどコンディションの悪さがはっきりと見受けられたが、その中でも15分台でまとめるあたりはさすが実力者の3人だといえるだろう。間違いなく主軸となる箱根予選会でもチームを引っ張る走りを期待したい。

#### 15:20 女子4×100mR 決勝

4レーンに鈴木(2年)-久保木(2年)-浜松(2年)-高山(4年)の走順で出場。津田塾大に勝つのはもちろん、京大戦に向けてタイムも狙っていかうという考えだ。

1走鈴木はスタートから飛び出し前傾を保ちながら加速、津田塾大をぐんぐん引き離してバトンは上手に渡って2走久保木へ。久保木は地面からの反発をもらったテンポ

良い走りでじりじりと差を開き、少しバトンはつまった様子で3走浜松へ。この大会で1500m、400mに出場し共に自己ベストを更新している浜松は疲労も心配されたが懸命に走る。津田塾大も必死に追いかける。少し差を縮められた状態で4走高山へ。高山は落ち着いて快走し、53'71の1位で津田塾大に圧倒的な差をつけてゴールした。

終始危なげのないレースであった。51秒台が出なかったのは残念ではあったが、この日の暑さを考えればまずまずの結果であろう。京大戦に向け、個々の走力、バトンの繋ぎ共に練習していきたい。

#### 15:30 男子4×400mR 決勝

3レーンに西田(4年)-上松(2年)-松原(1年)-増本(4年)の走順で出場。4継は負けてしまったので、最後こそは勝って気持ちよく終わりたいところ。ケガ人や調整不足の選手が続出し、本来はエントリーしていなかった西田と増本が出場した。

1走の西田は落ち着いてスタートし、ゆったりとした大きな走りでスピードを維持。後半は疲れが見えたが最後まで踏ん張り、アウトレーンの一橋大に対して横並びのままバトンパス。2走の上松は、パスを受けて素早く加速し、前に出る。オープンレーンになってからは常時10mほどのリードを保ち、そのまま松原にバトンを託す。3走の松原はトラック種目の対校選手としては初出場。力強く走り出すが、じわじわと差を詰められ、第4コーナーで追いつかれる。同時にバトンが渡り、アンカー勝負となった。4走の増本は、前に出た一橋大のラッシュを追うが、その差は縮まらず、逆に徐々に離される。ラッシュは最後の直線でもスピードが落ちず、東大は3'21"25の2位でゴール。ここ何年も負けていないマイルで敗北を喫した。

4継に続きマイルも負けたため、総合優勝はしたものの、勝った気がしない悔しい勝利となった。試合後に跳躍パートの西田が「俺が出るようなリレーチームはだめだ」と言ったように、短長パートが力をつける必要がある。負けて一番悔しかったのは当

のリレーメンバーだったから、今回をバネに京大戦に向かって欲しい。

## フィールド

#### 10:30 男子円盤投 決勝

原(4年)、佐々木(2年)、片山(2年)の出場。投擲最初の種目であり、大量得点で勢いをつけたいところである。

原は今季低調が続いていたが、ここで歯車が噛み合ったようで、一投一投が安定していた。結果は1投目の29m26で3位となった。一方、片山は試合直前まで所用で練習を積みなかった。そのため投げに精彩を欠き、5投目の29m87で2位となった。関東インカレ標準の突破はまたも持ち越しとなった。佐々木は夏休みの地元での特訓以来フォームの変更中であり、無難な投擲をみせ、5投目に36m67を記録し優勝した。

結果、東大が上位独占を果たし、その後に勢いをつけることができた。だが、各々次の試合に向け、なすべき事が見えたはずであるので、更なる鍛錬を積みレベルアップを果たしてもらいたい。

#### 11:50 男子砲丸投 決勝

原(4年)、佐々木(2年)、片山(2年)の出場。天候は晴れで気温も高く、残暑厳しい中での試技であった。各々実力を発揮すれば確実に点を取ることができ、うまくいけばスコンクも狙える状況であった。

佐々木は回転投げがうまくはまらなかったようであったが、6投目に立ち投げで10m52を投げ底力をみせ、1位となった。原は前半苦しむが、6投目に9m54を投げベストまではいかないものの4年生の意地をみせた。結果は2位であった。片山は思い通りの投擲ができず、2投目に9m14を投げるもそれ以上の記録を出すことはできなかった。順位は5位であった。

この種目東大の4点勝ちとはなったが、上位独占も狙えただけに物足りなかった。京大戦は厳しい戦いとなるだろう。もっと気を引き締めて練習してほしい。

**11:50 女子砲丸投 決勝**

高山(4年)、武田(1年)の出場。強い日差しと高温の中での競技となった。津田塾大に投擲専門の選手がいないため、武田には確実に1位を狙いつつ記録へ挑戦することが求められる。高山も、自己ベスト更新を目指して練習を積み臨んだ。

武田は1投目、8m台で首位に立つと、両足の踏ん張りを意識した投擲で2投目には9mを超え自己記録をマーク。その後の記録は8m台に留まったが、他の選手の追隨を許さず結局9m35の1位であった。高山は1投目でひとまず6mを超えて3位につけると、3投目で津田塾大の選手を逆転。結果は6m49の2位であった。

東大は1位と2位で着実に得点を積み上げた。武田は3ヶ月ぶりの自己ベスト更新となった。しかしまだまだ投擲にむらが見られるため、今後もグライド技術の向上に努めもっと安定した投擲ができるように練習を積んでいってほしい。高山もコンスタントに記録を残し、練習の成果を見せた。今後は専門種目との兼ね合いもあるだろうが、一月後の京大戦に向けさらに投擲を磨いていってほしい。

**13:00 男子走幅跳 決勝**

西田(4年)、飯島(1年)、沢登(1年)の出場。心地よい追風が吹くなか試合が始まる。いい記録を出す絶好の試合である。

西田は一跳躍目で7m00を記録。調子はまずまずと言っていいだろう。二跳躍目ではさらに記録を伸ばし7m07。その後も7m00前後の跳躍を連発するが二跳躍目には及ばず。順位は1位で競技終了。飯島は助走練習の時から足が動いておらず、当然試合でも記録が芳しくない。二跳躍目でなんとか6m65を記録するも、その後は踏切の衝撃に耐えられず記録は下降の一途を辿った。順位は2位。沢登は初の対校戦試合。緊張の姿がうかがえる。一跳躍目は向風0.9mのなか5m70を記録。その後も安定した跳躍を続け、記録は5m90。自己ベストに迫る勢いを見せた。順位は6位。

以上により東大は走幅跳により7点を獲

得した。来年は現一年生が走幅跳を率いて行くことになる。しかし、率いていくには記録が心許無い。京大戦での一年生の活躍に期待したい。

**13:00 女子走幅跳 決勝**

高山(4年)、武田(1年)の出場。日陰の無い炎天下で競技が開始される。両者共故障を抱えているが、確実に1、2位を取り津田塾大に得点差をつけたい。

高山は1本目、助走スピードが上がらないまま辛うじて踏み切り動作を行い、4m66を飛ぶ。その後も、煮え切らない跳躍が続く、結局1本目が最高記録となり、4m66で1位であった。武田は1本目、走りに本来のキレがなく、低空飛行で4m27を記録する。その後、徐々に記録を伸ばし、3回目に4m37を飛び、全体で2番目の記録で4跳目を迎える。しかし、直後に津田塾大の選手に逆転され、6本目に4m36を記録するも及ばず、2位と2cm差の4m37で3位に終わった。両者共、本来の跳躍とはかけ離れた低調な記録で終わった事が非常に残念であった。

来る京大戦では、この種目で1、2位を取り勝ち越すことが必須である。残る1ヶ月で切れ味を取り戻し、是非ともフィールドからチームを盛り上げていってほしい。

**13:30 男子やり投 決勝**

千葉(4年)、原(4年)、山東(2年)の出場。朝から晴天が続き、気温が高い中で試合は行われた。

千葉は肘の怪我から回復し実力を十分に発揮することを期待されていた。最初の投擲では46m82とまずまずの結果であった。そして3投目では51m51と自身にとっては1年半ぶりの50m越えを記録し、前半を2位で終えて後半に進むことになった。しかし4投目以降は40m後半の記録が続く、さらに記録を伸ばすことができず2位という結果に終わった。原は前半が終わったところで33m80という本調子が出ないまま後半を迎えることとなった。しかし4投目に37m56と記録を伸ばし、4位で競技を終え

た。山東は前回の七大戦で惜しくも届かなかった40mを目標にしていたが、1投目はファール、続く2投目は35m22と目標の40mには及ばない投擲であった。3投目以降も35m前後と記録が低迷し、最終的には35m22のまま6位で終わることになった。

京大戦に向けていい流れを作っておきたかったが、一橋に負け越すという不安が残る内容であった。千葉にはさらなる飛躍を、原と山東には課題の克服を期待する。

#### 14:30 男子走高跳 決勝

地子(5年)、坂本(4年)、原(4年)の出場。総合得点では勝っているものの、この走高跳で大崩れすると逆転されかねない状況であった。

原は1m50を難なく成功し、練習の成果を見せてくれた。調子もよさそうで1m60までいけるかと期待させたが、踏み切り足をひねって棄権したため、記録は1m55の6位。地子は練習中に首をいたため、1m65は跳んだがそこで終わってしまった。坂本は1m80で1回失敗するが2回目で成功させた。もう1m80は確実に跳べるレベルになった。1m85も1回目は失敗してしまい、一橋の2番手の選手が2回目にこれを跳んだため追い込まれてしまう。しかし2回目で成功。それまでの試技数差で坂本は2位となった。1m90でもかなり惜しい跳躍があり、京大戦では1m90を跳んでくれるだろう。結果、坂本が2位、地子が4位タイで3点負けてしまった。

### 1.5 試合結果

第52回東京大学・一橋大学対校陸上競技大会  
第7回東京三大学女子対校陸上競技大会

於 東京大学駒場競技場 (H22.9.4)

#### 男子100m 決勝 (+1.9)

1	西田昂広	東京大	10"82
2	永田雅之	一橋大	10"96
3	春日慶輝	東京大	11"09

4	ラッシュ恵	東京大	11"25
5	菊池典晃	東京大	11"33
6	鈴木康徳	一橋大	11"54

#### 男子400m 決勝

1	ラッシュ恵	一橋大	50"05
2	大澤涉	東京大	50"57
3	櫻井綾人	一橋大	50"76
4	上松祐太	東京大	50"91
5	舩島一樹	東京大	51"35
-	白神豊	一橋大	DNS

#### 男子1500m 決勝

1	斎藤和輝	一橋大	4'08"46
2	石川宗史	一橋大	4'08"79
3	石井雄一	一橋大	4'10"09
4	渡邊拓也	東京大	4'15"23
5	池田剛志	東京大	4'21"27
6	鈴木俊輔	東京大	4'29"14

#### 男子5000m 決勝

1	宮野健司	東京大	15'17"09
2	森田雄祐	一橋大	15'30"43
3	大垣秀介	一橋大	15'40"18
4	東大貴	東京大	15'49"13
5	青木佑樹	東京大	15'51"41
6	渡邊和也	一橋大	16'52"82

#### 男子110mH 決勝 (±0.0)

1	酒谷彰一	東京大	15"54
2	増本健太郎	東京大	15"88
3	ラッシュ恵	一橋大	16"03
4	石川順章	一橋大	16"47
5	上田瑛久	一橋大	16"57
6	江間輝裕	東京大	16"62

#### 男子4×100mR 決勝

1	一橋大	42"41
2	東京大	42"58

(春日-菊地-舩島-真木)

#### 男子4×400mR 決勝

1	一橋大	3'20"58
---	-----	---------

2 東京大 3'21"25  
(西田-上松-松原-増本)

---

男子走幅跳決勝

1	<u>西田昂広</u>	東京大	7m07(+1.6)
2	<u>飯島靖成</u>	東京大	6m65(+1.9)
3	<u>石川順章</u>	一橋大	6m59(+1.9)
4	<u>小沢順</u>	一橋大	6m50(+2.2)
5	<u>佐野健太郎</u>	一橋大	6m24(+0.1)
6	<u>沢登良馬</u>	東京大	5m90(+0.3)

---

男子走高跳決勝

1	<u>石川順章</u>	一橋大	1m90
2	<u>坂本智</u>	東京大	1m85
3	<u>小沢順</u>	一橋大	1m85
4	<u>地子智浩</u>	東京大	1m65
4	<u>石川宗史</u>	一橋大	1m65
6	<u>原湖南</u>	東京大	1m55

---

男子砲丸投決勝

1	<u>佐々木駿</u>	東京大	10m84
2	<u>原湖楠</u>	東京大	9m54
3	<u>上田瑛久</u>	一橋大	9m31
4	<u>石川順章</u>	一橋大	9m25
5	<u>片山卓也</u>	東京大	9m14
6	<u>重光成一郎</u>	一橋大	8m25

---

男子円盤投決勝

1	<u>佐々木駿</u>	東京大	36m67
2	<u>片山卓也</u>	東京大	29m87
3	<u>原湖楠</u>	東京大	29m26
4	<u>櫻井綾人</u>	一橋大	27m96
5	<u>石川順章</u>	一橋大	25m12
6	<u>上田瑛久</u>	一橋大	24m31

---

男子やり投決勝

1	<u>重光成一郎</u>	一橋大	53m48
2	<u>千葉伸宏</u>	東京大	51m51
3	<u>戸田康紀</u>	一橋大	38m25
4	<u>原湖楠</u>	東京大	37m56
5	<u>石川順章</u>	一橋大	36m72
6	<u>山東誉英</u>	東京大	35m22

---

男子トラック順位

1	<u>一橋大</u>	35
2	<u>東京大</u>	27

---

男子フィールド順位

1	<u>東京大</u>	30.5
2	<u>一橋大</u>	19.5

---

男子総合順位

1	<u>東京大</u>	57.5
2	<u>一橋大</u>	54.5

---

女子100m 決勝 (±0.0)

1	<u>久保木結</u>	東京大	13"40
2	<u>鈴木理香</u>	東京大	13"51
3	<u>花岡恵梨香</u>	津田塾	13"66
4	<u>来光彩加</u>	津田塾	14"89

---

女子400m 決勝

1	<u>浜松由莉</u>	東京大	1'04"20
2	<u>渡邊知世</u>	津田塾	1'05"18
3	<u>花岡恵梨香</u>	津田塾	1'07"64
4	<u>増田有里子</u>	東京大	1'08"71

---

女子1500m 決勝

1	<u>浜松由莉</u>	東京大	5'06"61
2	<u>杉浦奈実</u>	東京大	5'10"57
3	<u>中島加奈恵</u>	津田塾	5'13"12
4	<u>村上真望</u>	津田塾	5'51"14

---

女子4×100mR 決勝

1	<u>東京大</u>	53"71
(鈴木-久保木-浜松-高山)		
2	<u>津田塾</u>	55"34

---

女子走幅跳決勝

1	<u>高山花子</u>	東京大	4m66(±0.0)
2	<u>花岡恵梨香</u>	一橋大	4m39(+0.5)
3	<u>武田有希子</u>	東京大	4m37(+0.7)
4	<u>渡邊知世</u>	津田塾	3m89(+1.3)

---

女子砲丸投決勝

1	<u>武田有希子</u>	東京大	9m35
---	--------------	-----	------

2	高山花子	東京大	6m49
3	花岡恵梨香	津田塾	6m37
4	来光彩加	津田塾	4m23

#### 女子トラック順位

1	東京大	37
2	津田塾	27
3	一橋大	0

#### 女子フィールド順位

1	東京大	21
2	津田塾	15
3	一橋大	0

#### 女子総合順位

1	東京大	58
2	津田塾	42
3	一橋大	0

## 2 日本インカレ

### 2.1 監督の言葉

監督 藤田靖浩

9月10日の日本インカレには学部生としては5年振りに早川(4年)が10000mWに出場。炎天下の中、最初の1000mは4'29"とかなりスローペースの展開。先頭集団の後方で粘るものの、ラスト2週で若干スタミナ切れで順位を落とし45'18"72で20位でした。

入賞こそならなかったものの、部員一同に日本インカレでも十分戦えるという勇気を与えてくれました。

### 2.2 主将の言葉

主将 酒谷彰一

全カレへの出場が叶わなかった自分が能弁を垂れる資格はありませんので、ここでは早川と競歩について第三者的な視点から述べさせて頂きたいと思います。

大学2年生の秋、長距離パートに所属していた彼は怪我をきっかけに競歩を始めました。最初は彼が競歩を始めるときいて、もったいないなあ、という気持ちを禁じ得ませんでした。その考えも彼の躍進につれて消えていきました。早川の驚くべきポイントは、その成長スピードが一向に衰えないところです。3年時の春には早くも関東インカレに出場しました。

関東インカレの舞台では満足のいく歩きはできなかったもののその後も自己記録をどんだんのばし、4年時の春には関東インカレ10000mWで4位、そして5000mWでは東大新記録を樹立するまでに至りました。

今回も入賞こそ果たせませんでした。早川は確かに全日本という大舞台で勝負に加わっていました。

まだまだ早川晃司という選手の限界は見えきてはいないと思います。本人も競技に対する情熱は持ち続けているようですので、同期の仲間として彼のこれからの一層の活躍を楽しみにしています。

### 2.3 選手の言葉

男子 10000mW 早川晃司(4年)

大学2年の夏に膝のケガをきっかけに競歩を始めから早2年、当時は夢でしかなかった日本インカレの舞台に立つことができました。今年6月の個人選手権では、入賞まで100分の2秒差の9位だったこともあり、全国の舞台で「今度こそ入賞」という気持ちでレースに臨みました。結果は不本意なものになってしまいましたが、高校時代には都大会にすら出場できなかった自分が、大学で日本インカレに出場できたのも多くの皆さんのご支援、ご指導のおかげです。寺田さん・明石さんを始めとした競歩パートの方々。一緒に練習してきた長距離の皆。主務という立場にいた自分を支えて助けてくれた同期の仲間など、数え挙げたら切りがありません。OB・OGの方々からもレース前に多くの励ましをいただきました。当日は部員全員に応援してもらえて、選手として本当に幸せでした。ご声援ありがとうございました。これからも気持ちが続く限り、少しでも上のレベルを目指して戦いを続けていきます。

### 2.4 試合経過

#### トラック1日目(9/10)

##### 15:40 男子 10000mW 決勝

早川(4年)の出場。今シーズン、早川は関東インカレ2部で4位、日本学生個人選手権で9位と大舞台でも結果を残してきている。参考記録が41分台という選手も多くエントリーしており、厳しい戦いが予想されたが、早川の士気、部内の注目度は高く、入賞を期待されていた。

9月とは思えないほどの日差しと蒸し暑

さの中でスタートした。最初の1000mが4'29"というスローペースの中、早川は大集団の中央に位置した。1200mで東学大の村上が集団から飛び出すも長続きせず、4000m手前で集団に再吸収された。早川は集団の中央で一定のペースを刻みながら歩いていたが、4200m辺りで集団前方がスピードアップすると、徐々に離されていき、同じように集団からこぼれた選手と第2集団を形成した。早川の5000mの通過は22'04"で21番目だったが、8位とはまだ10秒差であり、十分入賞を狙える位置にいた。この後も集団からこぼれた選手をどんどん抜いて順位を上げるものの、ペースは徐々に落ちてきており、8位との差は大きく広がってしまった。さらに7000mを通過した後は、苦しい表情になり、ペースを大きく落としてしまった。残り3000mで順位を落とし、ラストも粘り切れず、45'18"82の20位でゴールした。

入賞こそならなかったものの、早川は格上の選手たちを相手に堂々たる歩きを見せた。学生最高峰の舞台で堂々と戦う早川の姿を見て、部内の意識も高まっており、来年以降も全日本インカレで東大の選手が戦う姿を見ることを期待したい。

## 2.5 試合結果

### 第79回日本学生陸上競技対校選手権大会

於 国立競技場 (H22.9.10-12)

男子 10000mW 決勝			
1	長岩大樹	山梨学大	42'58"26
2	小林友貴	東海大	43'09"28
3	上田勝也	順大	43'13"29
4	南雄斗	順大	43'26"26
5	勝木隼人	東海大	43'27"52
6	今滝耕作	東洋大	43'33"18
7	鈴木基文	順大	43'33"55
8	村上格	東学大	43'48"87
20	早川晃司	東京大	45'18"72

## 3 2010年度部内5傑

\*学年は2010/4/1時のもの

### 男子 100m

1	西田昂広 (4年)	10"81(+1.8)	8.1
2	春日慶輝 (3年)	10"91(+1.9)	8.29
3	菊池典晃 (2年)	11"27(+1.7)	8.1
4	山下修平 (2年)	11"45(±0.0)	9.4
5	真木伸浩 (2年)	11"51(-0.5)	4.25

### 男子 200m

1	西田昂広 (4年)	22"16(+0.1)	7.3
2	真木伸浩 (2年)	22"55(+0.1)	7.3
3	増本健太郎 (4年)	22"59(+1.4)	8.1
4	春日慶輝 (3年)	22"67(+0.5)	7.3
5	舩島一樹 (3年)	22"93(-1.1)	6.13

### 男子 400m

1	大澤渉 (2年)	49"53	6.13
2	上松祐太 (2年)	50"91	9.4
3	舩島一樹 (3年)	50"99	7.3
4	小松侑太 (3年)	51"87	8.22
5	渡邊拓也 (4年)	52"52	9.4

### 男子 800m

1	渡邊拓也 (4年)	1'55"98	5.30
2	園部竜也 (4年)	1'59"55	5.1
3	近藤堯之 (4年)	2'00"30	8.1
4	須田遊人 (5年)	2'00"98	6.27
5	池田剛志 (3年)	2'01"18	6.13

### 男子 1500m

1	東大貴 (3年)	4'00"59	6.13
2	大内田弘太郎 (2年)	4'05"99	8.1
3	池田剛志 (3年)	4'06"42	5.29
4	山田竜也 (3年)	4'06"83	4.17
5	渡邊拓也 (4年)	4'08"27	3.25

### 男子 5000m

1	宮野健司 (3年)	14'56"00	5.2
2	東大貴 (3年)	15'05"04	4.3
3	青木佑樹 (3年)	15'09"83	5.29
4	山田竜也 (3年)	15'21"04	4.18
5	渡邊駿 (2年)	15'36"18	5.30

## 男子 10000m

1	東大貴 (3年)	30'46"98	5.1
2	宮野健司 (3年)	30'51"94	5.1
3	青木佑樹 (3年)	31'42"51	5.1
4	大久保翔平 (2年)	33'16"65	5.1
5	中島圭一 (4年)	33'21"52	4.17

## 男子 ハーフマラソン

1	東大貴 (3年)	1:08'20"	5.23
2	宮野健司 (3年)	1:09'06"	5.23
3	青沼和幸 (2年)	1:20'22"	4.11
4	渡邊陽大 (2年)	1:25'36"	4.11

## 男子 110mH

1	酒谷彰一 (4年)	15"16(+0.1)	8.22
2	増本健太郎 (4年)	15"31(-0.7)	8.1
3	江間輝裕 (4年)	15"87(+0.8)	8.1
4	杉森康平 (1年)	16"36(-0.6)	9.4
5	谷口尚史 (2年)	16"67(+1.1)	7.11

## 男子 400mH

1	酒谷彰一 (4年)	55"85	8.21
2	高木海平 (3年)	56"39	6.13
3	赤木裕 (4年)	56"40	8.1
4	増本健太郎 (4年)	57"03	7.17
5	江間輝裕 (4年)	57"46	6.5

## 男子 3000mSC

1	青木佑樹 (3年)	9'20"27	7.3
2	渡邊駿 (2年)	9'42"09	7.3
3	山田竜也 (3年)	9'54"75	7.3
4	岩川純也 (2年)	10'00"27	7.3
5	渡邊拓也 (4年)	10'07"12	4.11

## 男子 5000mW

1	早川晃司 (4年)	21'06"56	4.29
2	瀧川朗 (2年)	22'27"53	6.13
3	堀田樹生 (1年)	24'33"90	7.3
4	近藤健一 (1年)	24'46"17	7.3
5	井上雄介 (4年)	27'43"58	7.3

## 男子 10000mW

1	早川晃司 (4年)	43'57"57	3.25
2	瀧川朗 (2年)	46'23"46	3.25
3	井上雄介 (4年)	53'46"56	5.3

## 男子 走幅跳

1	西田昂広 (4年)	7m18(-0.7)	8.1
2	飯島靖成 (1年)	6m72(+0.0)	7.3
3	真木伸浩 (2年)	6m13(+0.8)	4.24
4	酒谷彰一 (4年)	6m08(+2.0)	4.24
5	八子基樹 (1年)	6m02(+1.4)	9.4

## 男子 三段跳

1	西田昂広 (4年)	14m26(+0.3)	8.1
2	廣瀬彬 (5年)	13m37(+0.4)	7.3
3	杉森康平 (1年)	12m30(+0.7)	7.3
4	沢登良馬 (1年)	12m16(-0.2)	7.3

## 男子 走高跳

1	坂本智 (4年)	1m85	8.1
2	地子智浩 (5年)	1m80	8.1
3	原湖楠 (4年)	1m55	9.4

## 男子 棒高跳

1	土居富裕 (3年)	3m60	6.13
1	原湖南 (4年)	3m60	9.4

## 男子 砲丸投

1	佐々木駿 (2年)	10m81	6.13
2	片山卓也 (2年)	9m64	7.3
3	原湖楠 (4年)	9m63	4.24

## 男子 円盤投

1	佐々木駿 (2年)	38m63	8.1
2	片山卓也 (2年)	31m98	5.5
3	原湖楠 (4年)	29m52	4.25

## 男子 ハンマー投

1	千葉伸宏 (4年)	34m23	8.1
2	河本大希 (1年)	22m59	8.1
3	今村昌平 (2年)	22m09	8.1

## 男子 やり投

1	千葉伸宏 (4年)	51m51	9.4
2	山元明人 (1年)	46m43	7.3
3	原湖楠 (4年)	40m77	4.3
4	山東誉英 (2年)	39m85	8.1
5	今村昌平 (2年)	33m34	7.31

## 男子 十種競技

1	原湖楠 (4年)	4806点	4.24-25
---	----------	-------	---------

## 女子 100m

1	久保木結 (2年)	13"27(-1.5)	7.3
2	鈴木理香 (2年)	13"51(±0.0)	9.4
3	高山花子 (4年)	14"41(-1.8)	4.3

## 女子 400m

1	浜松由莉 (2年)	1'04"20	9.4
2	久保木結 (2年)	1'04"63	4.18
3	鈴木彩夏 (1年)	1'06"02	7.3
4	鈴木理香 (2年)	1'06"03	4.10
5	増田有里子 (1年)	1'08"71	9.4

## 女子 800m

1	浜松由莉 (2年)	2'22"01	8.1
2	増田有里子 (1年)	2'30"95	6.13
3	岩上佳世 (2年)	2'44"09	5.1
4	鈴木恵美里 (3年)	2'54"10	3.25

## 女子 1500m

1	浜松由莉 (2年)	5'06"61	9.4
2	杉浦奈実 (2年)	5'10"57	9.4
3	立岡美夏子 (2年)	5'18"25	4.3
4	杉本南 (1年)	5'24"79	7.3
5	鈴木恵美里 (3年)	5'30"65	4.25

## 女子 3000m

1	杉浦奈実 (2年)	11'07"70	5.1
2	鈴木恵美里 (3年)	11'13"75	7.3
3	立岡美夏子 (2年)	11'48"47	5.1
4	杉本南 (1年)	12'47"27	6.13

## 女子 100mH

1	久保木結 (2年)	15"12(-0.4)	7.3
---	-----------	-------------	-----

## 女子 走幅跳

1	高山花子 (4年)	5m13(+0.7)	8.1
2	武田有希子 (1年)	4m58(+0.5)	7.3
3	丹家里枝 (2年)	3m74(+0.3)	7.3

## 女子 走高跳

1	丹家里枝 (2年)	1m48	8.1
1	久保木結 (2年)	1m48	8.1

## 女子 砲丸投

1	武田有希子 (1年)	9m35	9.4
2	高山花子 (4年)	6m49	9.4

## 女子 円盤投

1	武田有希子 (1年)	34m70	6.13
---	------------	-------	------

## 女子 やり投

1	武田有希子 (1年)	23m05	6.13
---	------------	-------	------

## 4 自己記録更新者一覧 2010.8.2~9.4

\*SF は予選準決勝ともに自己記録を更新した場合の準決勝のタイム

## 8/21-22 第63回富山県民体育大会陸上競技会

400mH 酒谷彰一 (4年) 55"85

## 8/22 第8回国土舘大学競技会

400m 小松侑太 (3年) 51"87

## 8/28-29 第54回北陸陸上競技選手権大会

100m 春日慶輝 (3年) 10"96(+1.8)

100m 春日慶輝 (3年) 10"91(+1.9)SF

## 9/4 第52回一橋大学・東京大学対校陸上競技大会

## 兼第7回東京三大学対校女子陸上競技大会

400m 浜松由莉 (2年) 1'04"20

1500m 浜松由莉 (2年) 5'06"61

1500m 杉浦奈実 (2年) 5'10"57

110mH 杉森康平 (1年) 16"36(-0.6)

走高跳 原湖南 (4年) 1m55

棒高跳 原湖南 (4年) 3m60

砲丸投 武田有希子 (1年) 9m35

## 5 主務より

## 5.1 応援OB・OG紹介

9月4日(土)に駒場グラウンドにて行われました一橋戦、および9月10日(金)に国立競技場にて行われました日本インカレに際し、応援に駆けつけて下さったOB・OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

## 一橋戦

1979年卒 中谷敬二

1983年卒 八田秀雄

1991年卒 小野満

1994年卒 工藤麻衣子

2001年卒 岡野浩行

2001年卒 中台慎二

2003年卒 相原佑康

2008年卒 石井嵩

2008年卒 松本翔

2008年卒 山本卓典

2009年卒 梶井駿介

2009年卒 金尾太郎  
 2009年卒 北川昴広  
 2009年卒 藤本元太  
 2009年卒 松本光一  
 2010年卒 荒井博貴  
 2010年卒 日下桃子  
 2010年卒 景山瑞貴  
 2010年卒 楠木千尋  
 2010年卒 坂井啓一  
 2010年卒 清水蘭  
 2010年卒 杉山俊佳  
 2010年卒 西川鋭  
 2010年卒 野村圭吾  
 2010年卒 横田祥

#### 日本インカレ

1983年卒 八田秀雄  
 1994年卒 工藤麻衣子  
 1999年卒 明石顕  
 2008年卒 山本卓典  
 2009年卒 菅野雄大  
 2009年卒 割澤高行  
 2010年卒 北沢太郎

ご多忙の中、お越し下さいましたことに現役部員一同、心より御礼申し上げます。

## 5.2 行事予定

- 関東大学女子駅伝  
 9/26(日) 千葉・印西市  
 なお、今年度は女子部員数が大幅に増えたため、駅伝へ初参加することができました。
- 京大戦  
 10/9(土) 京都・山城
- 箱根駅伝予選会  
 10/16(土) 国立昭和記念公園
- 第12回東大競技会  
 11/6(土)・7(日) 駒場グラウンド
- 第1回ディスタンスチャレンジ  
 11/28(日) 駒場グラウンド

## 5.3 連絡先(慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL : 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail : seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:早川晃司

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 3-39-11

TEL : 090-5761-9980

FAX : 0422-47-8726

E-mail: shumu@uttff.org

\* この部便りは下記 web ページでもご覧になれます \*

<http://www.uttff.org/>

\* また、現在、陸上運動倶楽部のメーリングリスト「uttff club」にて、大会結果の速報および部便りのメール送付等を行っております。メーリングリストへの登録をご希望の方、もしくは部便りの郵送不要の方は、お手数ですが学生主務までご連絡下さい \*

主務 早川晃司

文責：木内久雄